

は脅しととる。対立国相互がこの道をとれば限りない軍拡競争を招き止まらなくなる。維持に税金が投入され、限られた税収から国民の暮らしにかかわる予算は削られ内需は落ち込み不景気となる。この流れは何度となく経験済みだ。

更に中東などで戦争となれば国内で70年遭った事もないテロや事件が発生するだろう。社会に新たな不安が広がり恐怖に苛まれることになる。

日本がいま在るのは先の敗戦を原点とした日本国憲法前文にあると考える。戦禍に遭うも「あたらしい憲法」に希望を託し、名実とも世界に信頼される日本を築いてきた。戦争とは相反する前文がこれを示している。安保法案は日本発展の自由を奪う足枷である。

今主権者は何をすべきか

安保法案は国家体制を大きく変えてしまうことを認識し、憲法と安全保障について国民一人ひとり関心を持つことが必要だ。

安倍首相は本気で戦争する気であるし、自民党は戦争できる国家を目指している。日本国憲法と自民党憲法草案を並べてみれば鮮明に浮かび上がってくる。第九条の「戦争の放棄」を草案では「安全保障」と変え、2項で交戦権を肯定（否定ではない）し、九条の二を新たに設け国防軍つまり自衛隊を軍隊にすると宣言している。

「戦争法案」反対！はんたーい！ 7・23戦争法案反対国会前集会に参加して

野田から6名が参加。抗議声明の第一声は、村山富市元首相。91歳とはとても思えないほど迫力ある声で、「命がけて憲法を守ろう」との訴えには軍隊体験者ならではの実感が込められていた。先週の強行採択後、政権関係者達は「連休があれば国民の関心も薄れるだろう」と高を括っていたようだが、どっこい2千名の参加者が「アベ政権を許さない」ゾ！のシュプレヒコールを高らかに叫び、闘いの継続を確認していた。

南地域九条の会 高崎 久男

憲法前文も見過ごすことはできない。現憲法の前文は「日本国民は…」から始まり国民が主語であり立憲主義に基づき権力者に義務を課している。草案では反対に国が国民に義務を課することをほのめかせ、第十三条の人権に至っては現憲法の「公共の福祉」を国民の権利をいかようにでも制限できる「公益及び公の秩序」と記している。草案は九十九条まであり、随所に戦争するのに必要な義務を課す文言を連ねている。平和憲法とは比較するのとはばかられるし、第一、二次世界大戦の教訓で得た国際社会の英知を活かさぬ偏狭な草案である。自民党の支持層はもちろん反自民、浮動層も時代錯誤な証拠を自ら確認すべきです。

己の一票でこの先を決め、その責は己に帰す。これを踏まれば来夏の参議院選で国政は変えられる。

片桐 直勝



許さな アベ政権と



櫛のホール前で



櫛のホールステージで。女優さんも



国会前で安保関連法案反対を訴える村山富市元首相
2015.07.23 PM6:40 喜屋武真之介撮影